

公募展の存続意義

松 島 正 幸

私に公募展の存続意義について書けと言う。

求める時には、それだけの必然性があり、必要が無くなれば、自然に消滅する。

無用論にも、有無論にも、それぞれの理由はある、なおかつ存続するのは、それだけの理由を我々が必要としているからなのだ。

いつの場合でも、現在に満足しない、より良いもの、より高いものを欲求するのは、生きる我々の必然の希いである。

自ら、心して進歩的な意見大いに聴くべし。発展とはいつでも、前向き
の形でなくてはならぬ。

公募展の意義も、常にそうありたい。

(1966. 5. 20)